



2024 (令和6年) 年3月15日 (金) 発行

〔発行所〕 応用生態工学会事務局 〒102-0083 東京都千代田区麹町4-7-5 麹町ロイヤルビル405号室

TEL : 03-5216-8401 FAX : 03-5216-8520 E-mail : eces-manager@ecesj.com HP : <https://www.ecesj.com/>

〔発行者〕 応用生態工学会 〔編集責任者〕 幹事長 天野 邦彦 事務局長 佐藤元樹

1	はじめに	1
2	一般社団法人への移行後の定款案に関する 意見募集の結果について	2
3	特別公開シンポジウム(廣瀬シンポジウム)報告	2
4	2024 年度海外学会参加者募集について	4
5	廣瀬賞等の募集について	
5-1	応用生態工学会 廣瀬賞、研究奨励賞および応用生態工学社会実践賞 の候補者募集について	9
5-2	応用生態工学会 廣瀬ワークショップ助成募集について	14
6	応用生態工学会第 27 回埼玉大会の開催案内	17
7	行事開催報告	
7-1	応用生態工学会仙台 フィールド調査 R 5 報告	17
7-2	河川再生に関する国際シンポジウム 開催報告	19
7-3	応用生態工学会金沢 第21回北信越現地ワークショップ in 石川	20
7-4	応用生態工学会新潟 勉強会 開催報告	25
7-5	応用生態工学会福岡 2024 事例・研究発表会 開催報告	28
8	理事会・幹事会等 報告	30
9	2023 年度行事経過と今後の予定	32
10	事務局より	34

1 はじめに

今号では、一般社団法人への移行後の定款案に関する事項、特別公開シンポジウム、海外学会参加者募集、廣瀬賞等の募集、第 27 回全国大会(埼玉大会)、各地の活動状況、理事会報告など、学会の動きをお伝えします。

なお、海外学会参加者募集、廣瀬賞等の募集については会員への一斉メール・ホームページで既にお知らせし、募集を開始しています。

2 一般社団法人への移行後の定款案に関する意見募集の結果について

報告者:佐藤元樹 応用生態工学会事務局

会員を対象に、令和 5 年 12 月 11 日から令和 6 年 1 月 12 日まで、一般社団法人応用生態工学会定款案についての意見募集を実施しました。提出された意見はなかったことを報告します。

3 特別公開シンポジウム(廣瀬シンポジウム)報告

応用生態工学会 特別公開シンポジウム ～応用生態工学のこれまでとこれから(廣瀬シンポジウム)～

報告者:天野邦彦 応用生態工学会 幹事長

1. 目的

廣瀬シンポジウムは、人と生物の共存、生物多様性の保全、健全な生態系の持続を実現するために必要と考えられる学術的探求課題やこれら課題を解決するために必要な学術分野間の協働について、議論することを目的として開催されました。学会設立時に、生態学と土木工学という異なる学術分野間の協働を実現するために尽力された廣瀬利雄元会長のご功績、創設当時の問題意識、学会の歩みを振り返るとともに、これからの学会が進むべきあり方について考えるために、講演と討議が行われました。

2. 内容

【開催日時】 令和 6 年 2 月 23 日 (金) 15 時～17 時 30 分

【開催場所等】 ガーデンシティ PREMIUM 秋葉原、会場から ZOOM ウェビナーも配信

【プログラム】

- ・会長挨拶 占部城太郎 (会長、東北大学)
- ・廣瀬利雄を偲ぶ – 応用生態工学を模索した頃 – 近藤徹 (第 4 代会長)
- ・応用生態工学会の発足への途と展開 谷田一三 (第 5 代会長)
- ・廣瀬さんが目指した学会の目標 西浩司 (いであ株式会社)
- ・廣瀬さんから学んだ応用生態工学に携わる技術者の視点 大杉奉功 (水源地環境センター)
- ・応用生態工学のフロンティアはどこに? – 河川環境管理の視点から見た一考察 – 萱場祐一 (名古屋工業大学)
- ・自然科学と工学の出会いの場所 宇野裕美 (北海道大学)
- ・総合討議 応用生態工学会の発展に必要なこと

3. 概要

講演では、多くの演者が、応用生態工学会設立当初に廣瀬元会長が監修した「応用生態工学序説」を参照されました。「応用生態工学序説」では、主に以下の 6 つの主張が提唱されています。①生態学と土木工学の領域の間に応用生態工学を設定する、②生物系は複数部門が総合的に議論する、③環境を人工物により、人工的に改変した場合を対象とする、④順応及び適応の一部分までの範囲とし、遺伝子操作までは

考えない、⑤調査、研究は仮説をもって行う。どのような仮説を立てるかが成果に重要な関わりがある、⑥価値論についての議論は、応用生態工学とは別の場で行う。

設立当時に廣瀬元会長と川那部元会長との間で交わされた技術論と価値論の議論に見られた、生態学と土木工学の間にあった考え方の乖離が、学会設立から約 25 年が経過し、解消されて共通基盤ができつつあること、そのような状況で、研究成果をいかに社会に還元するかが問われているということがまず議論されました。また、具体的に研究成果を社会実装するために、現場技術者に求められる姿勢が示されると共に、活用できる可能性のある研究成果を生かしきれていない現状も示されました。それを乗り越えるためには、研究の体系化をより進めると共に、適用可能な現場技術として確立される必要があることが議論されました。さらに、応用生態工学会においては、河川に関する研究活動が多くなされているが、都市計画や、より大きな国土管理の段階から自然・生態系の保全を計画していくことの重要性についても議論されました。

今後、良い研究を続けることが重要であると共に、学会内における職域、学問領域を超えた対話がより重要になります。このために、良い研究を行った、これからさらに良い研究を行うだろうシニアや若い研究者、また、具体的にその成果を社会に還元して生かした者を応援するために顕彰すること、さらには応用生態工学の発展を目的とするような、出版や社会活動への助成をすることに（廣瀬賞、研究奨励賞、社会実践賞、廣瀬ワークショップ助成）、廣瀬元会長の遺贈金を使わせてもらうこととなったことが紹介されました。

4. その他

当日のシンポジウムで用いられた発表資料等は HP に掲載することを予定しています。また、廣瀬賞等については、現在候補者を募集中です（〆切 4 月 30 日）。学会 HP の新着情報に案内が掲載されています。皆様の応募をお待ちしています。

4 2024 年度海外学会参加者募集

2024 年度海外学会等への派遣者を募集します

国際交流委員長 八重樫 咲子

2024 年度の海外学会等への派遣者を募集します。以下の募集要領をご覧ください。本制度を活用した研究者や技術者から有意義な経験や体験が報告されていますので、ぜひご応募を検討ください。

2024 年度海外学会等への派遣者の募集

国際交流委員会

応用生態工学会国際交流委員会では、2024 年度の海外学会等への派遣者 1-2 名を募集します。募集要領の概略は以下のとおりです。詳細は、学会ホームページをご確認のうえ、事務局まで申し込みください。

海外学会等への派遣者募集要領

1. 目 的

自然環境と開発の問題については、我が国だけに限らず多くの国々で関心を持たれ、様々な研究と実践的な試みが行われてきている。応用生態工学を発展させるためには、こうした海外での活動に積極的に係わり参加することによって、情報を得ながら、人的交流を図ることが求められている。

応用生態工学会では、ここに会員から希望者を募り、「派遣研究員」を審査選考して、当該年度に海外で開催される応用生態工学に関連する学会・シンポジウム・国際会議等に派遣し、その内容を応用生態工学会会員に報告するものである。

国際学会・シンポジウム・国際会議においては、オンライン開催(ウェビナー開催)が定着しつつあるため、2024 年度の派遣者募集に関しては、ウェビナー開催への参加費に関しても助成対象とすることとした。

2. 選 考

1) 資 格

- ① 応用生態工学会の正・学生会員であること（募集開始時点で会員でなくても、会員となることを条件として応募可能とする）
- ② 学生あるいは 35 歳未満の研究者・技術者

2) 派遣研究員の選考

- ① 学会としての総助成額を最大 40 万円とし選考する。
- ② 選考にあたっては国際交流委員会において書類審査を行い、候補者を選定した上で国際交流委員会にて決定し、幹事会および理事会に選考の経緯および結果を報告する。

3) 選考基準

- ① 派遣対象となる会議のテーマと本人のバックグラウンド（研究・調査経験）の整合性
- ② 派遣対象となる会議で何を学ぼうとしているのか、その焦点を明確に述べているか否か
- ③ 国際会議に出席して内容を把握できる能力

- ④ 応用生態工学への関心の度合い
- ⑤ 応用生態工学会での活動・参加状況・受賞歴
- ⑥ 派遣に関連する研究業績や業務実績

4) 派遣後の要件・手続き等

- ① 派遣研究員は、海外渡航の成果を指定の様式を用いて報告するものとする（報告内容は本学会のニュースレターおよび会誌“応用生態工学”に掲載します。なお、会誌“応用生態工学”では、「トピックス」に掲載します。）。
- ② 派遣終了後は、助成額の使途（使用費目と金額）について、決算報告するものとする。渡航先によっては、助成額の総額を上回る金額を使用した場合も考えられるが、その場合は、それらも含めて決算報告を行う。使用金額が助成額の上限を超えなかった場合には、余剰金を応用生態工学会に返金するものとする。
- ③ 何らかの理由により海外渡航と学会参加を中止する事態が生じた場合には、すみやかに応用生態工学会事務局にその理由などを報告するものとする。
- ④ 派遣研究員は、関連した研究や技術開発について、会誌“応用生態工学”もしくは英文誌“Landscape and Ecological Engineering”に論文を投稿することが推奨される。

3. 申 請 書

派遣希望者は、会員番号、氏名、所属、連絡先（住所・TEL・FAX・E-mail）、年齢、性別、専門分野、希望派遣学会等（開催会議等の名称、主催者名、開催月日、開催国・地名、会議等の目的・内容、現地見学会の有無と内容、参加申し込み期限、参加費、研究発表を行うか否か（その形式）、案内パンフレット等がありましたらそのコピーをお送りください）、必要経費の概算・内訳および派遣希望理由（上記の「3）選考基準」の各項目）を、A4 用紙計 2 枚以内（書式自由）にまとめ、下記の宛先へ郵送・FAX・E-mail 等にて学会事務局に申し込みください。申請書は日本語あるいは英語で記載してください。

住所：〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-7-5 麹町ロイヤルビル 405 号室 応用生態工学会事務局
FAX：03-5216-8520, E-mail: eces-manager@ecesj.com

なお、4 月以降に所属が変わる場合は、4 月以降の連絡先も付記してください。

4. 申 込 期 間

2024 年 3 月 1 日（火）～3 月 31 日（金）事務局必着

5. 派遣決定時期

2024 年 4 月下旬までに決定します。

6. 派遣を推奨する国際学会およびシンポジウム（以下の国際学会が主催する国際会議）

- International Consortium of Landscape and Ecological Engineering (ICLEE)
- Annual Meeting of Society for Freshwater Science (SFS)
- American Geophysical Union (AGU)
- Association for the Science of Limnology and Oceanography (ASLO)
- European Geosciences Union (EGU)
- International Society for Ecological Modelling (ISEM)
- International Society for River Science (ISRS)
- International Water Association (IWA)

なお、上記以外の国際学会やシンポジウムも応募可能です。

Call for Applications of Ecology and Civil Engineering Society (ECES) Grants for Participation in International Conferences in 2024

ECES International Committee

ECES International Committee are now accepting applications for ECES Grants for Participation in International Conferences in 2024. Please refer to the following application guideline. Researchers and engineers who have taken advantage of this program have reported meaningful insights and experiences. We encourage young members to consider applying for the ECES grant.

* * * * *

Application Guidelines for ECES Grants for Participation in International Conferences

1. Objectives

Concerns related to the natural environment and its development have been focused all over the world, and various research and practical challenges have been conducted. In order to grow the ECES community, it is necessary to promote human communication while obtaining information through active involvement and participation in overseas activities.

The ECES invites applicants from among its members, selects one "dispatched researcher," sends the researcher to international conferences related to ECES fields to be held overseas between April 2024 and March 2025, and reports the results to the members of the ECES.

2. Selection Methods

1) Qualifications

- Applicants must be regular or student members of the Ecology and Civil Engineering Society, Japan.

Note: Even if you are not a member at the time of application, you may apply on the condition that you become a member of ECES.

- Students or researchers/engineers under 35 years old

2) Selection of dispatched researchers

- The total amount of the ECES grant will be maximum 400,000 Japanese-yen. The grant amount will be determined by the location of the dispatched conference.
- The International Exchange Committee will screen the documents, select the candidates of a dispatched researcher, and report the selection process and results to the Executive Committee and the Board of Directors of ECES.

3) Selection Criteria

- Consistency of the candidate's background (research and survey experience) with the theme of the conference to be dispatched
- Whether or not the applicant clearly states the focus of what the applicant intends to learn at the conference.
- Ability to attend international conferences and understand their contents
- Degree of interest in the field of ECES
- Activities, participation, and awards received from the Ecology and Civil Engineering Society
- Research achievements and work results related to the dispatch

4) Reporting form after participation in the conference

(1) The dispatched researcher must submit a report on the participation in the conference using the designated form. The report will be published in the newsletter of ECES and in the Topics of "Ecology and Civil Engineering".

(2) After participating in the conference, a financial report on the use of the grant amount (the items of expense and the amount of money spent) must be submitted. If the amount spent exceeds the total amount of the grant, the financial report must include the excess amount. If the amount spent does not exceed the maximum grant amount, the remained amount must be refunded to the ECES.

(3) If the dispatched researcher has to cancel their participation in the conferences due to unavoidable reasons, the dispatched researcher must immediately report the reasons for the cancelation to the secretariat of the ECES.

(4) The dispatched researcher is encouraged to submit a paper on grant-related research or technology development to "Ecology and Civil Engineering" or "Landscape and Ecological Engineering".

3. Grant Application Form

Applicants are required to provide the following information: ECES membership number (if you will become a member, please indicate this), applicants name, affiliation, contact information (address, telephone, fax, e-mail, and contact person in Japanese), age, gender, field of specialization, the name of conference to attend (name of conference, name of organizer, date, country/place, purpose/content of conference, whether or not a field trip will be held, participation application deadline, participation fee, your research presentation style (e.g., oral, poster), information brochures (if there are)), estimated and detailed list of necessary expenses, and the reason why you wish to be attend the conference (refer to the list in "3) Selection Criteria"). Please submit these information in no more than two A4 pages (free format) to the ECES Secretariat by mail, fax, or e-mail to the address below. The application form should be written in either Japanese or English. If your affiliation will changes after April 2024, please include your new contact information.

Address: Ecology and Civil Engineering Society, #405, Kojimachi Royal Bldg., 4-7-5 Kojimachi, Chiyoda, Tokyo, 102-0083

In Japanese: 〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-7-5 麹町ロイヤルビル 405 号室 応用生態工学会事務局

FAX: +81 3 5216 8520

E-mail: eces-manager@ecesj.com

4. Application Deadline

The documents must be arrived at the ECES office by March 31, 2024.

5. Time of Grant Decision

The decision will be made by late April 2024.

6. International Conferences and Symposiums recommended for the grant (International conferences organized by the following international societies)

- International Consortium of Landscape and Ecological Engineering (ICLEE)
- Annual Meeting of Society for Freshwater Science (SFS)
- American Geophysical Union (AGU)
- Association for the Science of Limnology and Oceanography (ASLO)
- European Geosciences Union (EGU)
- International Society for Ecological Modelling (ISEM)
- International Society for River Science (ISRS)
- International Water Association (IWA)

Applications to other conferences are also welcome.

5 廣瀬賞等の募集について

5-1 応用生態工学会 廣瀬賞、研究奨励賞および応用生態工学社会実践賞の候補者募集について

応用生態工学会

会長 占部 城太郎

応用生態工学会の活動に対して日頃よりご協力ご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。このたび、応用生態工学会におきましては、応用生態工学の発展を実現するため、廣瀬利雄元会長からのご遺贈金を財源とした応用生態工学会 廣瀬賞、研究奨励賞および社会実践賞を設けました。

廣瀬賞および研究奨励賞は、応用生態工学会の正会員を対象に候補を募集いたします。また、応用生態工学会社会実践賞は、正会員から推薦された個人もしくは団体を対象に募集いたします。

応募に際しては、別添の「**応用生態工学会 廣瀬賞、研究奨励賞および応用生態工学社会実践賞に関する細則**」を確認の上、以下の要領でお申し込みください。

なお、授賞式は全国大会において行います。

応募要領

1. 募集期間

令和 6 年 3 月 1 日から 4 月 30 日（必着）

2. 応募方法

別添の応募申請書（廣瀬賞は書式 1、研究奨励賞は書式 2、社会実践賞は書式 3）に、必要事項を記入の上、PDF 化した電子ファイルを、電子メールに添付の上、「eces-manager@ecesj.com」まで募集期間内に提出してください。提出にあたっては、メール表題に「〇〇賞応募書類（〇〇に該当賞名を記入）」と明記してください。

3. 問い合わせ

電話による問い合わせはご遠慮ください。ご質問等がある場合は、電子メールでお願いします（eces-manager@ecesj.com）。

応用生態工学会 廣瀬賞、研究奨励賞および応用生態工学社会実践賞に関する細則

第 1 条 目的

廣瀬利雄氏の遺志である応用生態工学の発展を実現するため、氏の遺贈金を財源とした応用生態工学会 廣瀬賞、研究奨励賞および社会実践賞を設ける。

第 2 条 賞の対象

1. 応用生態工学会廣瀬賞は、顕著な研究業績により応用生態工学の研究発展や教育等に指導的役割を果たし、今後の研究や学会における活躍が期待される概ね 55 歳以下の正会員で、他の正会員に推薦された者の中から、毎年 1 名に授与する。
2. 応用生態工学会研究奨励賞は、応用生態工学において今後優れた研究展開が期待できる修士取得後 10

年以内の正会員で、自薦された者の中から、毎年 3 名以内に授与する。

3. 応用生態工学会社会実践賞は、応用生態工学会での顕著な活動やその学術成果を社会事業に還元・実践している個人もしくは団体で、正会員より推薦された個人もしくは団体の中から毎年原則 2 名もしくは 2 団体に授与する。

第 3 条 賞の内容

1. 応用生態工学会廣瀬賞受賞者には、賞状と廣瀬遺贈金より 60 万円を贈呈する。
2. 応用生態工学会研究奨励賞受賞者には、賞状と廣瀬遺贈金より 20 万円を贈呈する。
3. 応用生態工学社会実践賞受賞者には、賞状と廣瀬遺贈金より 15 万円を贈呈する。

第 4 条 応募方法

各賞の応募者（推薦、自薦）は、賞ごとに決められた応募申請書（書式 1~3）に必要事項を記入し、定められた期日までに学会事務局に提出する。

第 5 条 選考委員会

1. 各賞を選考するため、学会賞選考委員会（以下「委員会」）を設ける。
2. 委員会の委員は正会員とし、理事会の推薦により 6 名を選出する。委員は生態学と工学の各分野に偏りの無いように配慮する。
3. 委員長は委員の互選により毎年定める
4. 委員の任期は 3 年とし、毎年 2 名を改選する。任期満了後 2 年間は再任されない。

第 6 条 選考方法

1. 委員会は応募申請書をもとに審査を行う。
2. 委員会の委員が被推薦者となった場合で、選考の最終段階に候補として残った場合には、選考委員会からはずれるものとする。
3. 委員会は、各賞について定められた受賞者数までの候補者を選考する。
4. 選考された候補者は、選考理由を付けて会長に報告する。受賞候補者が人数に満たない場合もしくは無い場合も、その旨を会長に報告する。

第 7 条 受賞者の確定

会長は委員会が選定した候補者について、その賛否を理事会に諮り、有効投票のうち 3 分の 2 以上の賛成がある場合、これを受賞者として決定し、直ちに本人に通知をする。また、受賞候補者が無い場合には、理事会の了承を受けて、受賞者が無いことを会員に公表する。

第 8 条 授賞式

1. 受賞者の決定は授賞式が行われる 3 ヶ月前までに行う。
2. 授賞式は大会において行う。

書式 1 応用生態工学会 廣瀬賞 応募申請書

年 月 日

(1) 推薦者氏名

会員番号

連絡先住所

電話番号

メールアドレス

(推薦者が複数の場合は、上記をコピーして記入すること)

(2) 候補者氏名 (ふりがな)

生年月日

学位 (取得年月日)

所属・職名

連絡先住所

電話番号

メールアドレス

(3) 最終学歴および研究・教育歴

(4) 研究業績の概要 (独創性など、特に優れている点等) (A4で1枚以内)

(4) 発表業績リスト (著者名・発行年・タイトル・雑誌名及び掲載ページ)

(5) 被引用数などがわかるデータベースURL (Google scholar, Scopusなど)

(5) 学会・社会・教育活動の一覧

(応用生態工学会における活動 (理事・幹事・委員、大会委員、地区会活動を含む), 学術雑誌の編集委員や省庁等における各種委員としての活動, 大学・研究機関での教育指導や一般向けの講演など、代表的な活動を記してください。)

10.5 ポイント以上のフォントで、10 ページ以内

提出先 応用生態工学会事務局

書式 2 応用生態工学会 研究奨励賞 応募申請書

年 月 日

(1) 応募者氏名 (ふりがな)

生年月日

学位 (取得年月日)

所属・職名

連絡先住所

電話番号

メールアドレス

(2) 最終学歴および研究歴

(3) これまでの研究の概要 (研究で工夫した点など) (A4で1枚以内)

(4) 発表業績リスト (著者名・発行年・タイトル・雑誌名及び掲載ページ)

(5) 応用生態工学会での活動歴

(大会での発表や、地区会活動を含む)

(6) 研究についての抱負など

(優れている点や独創性、自身のこれまでとこれからの研究のアピール)

10.5 ポイント以上のフォントで、4 ページ以内

提出先 応用生態工学会事務局

書式 3

応用生態工学社会実践賞 応募申請書

年 月 日

自薦の場合は、(1) は記入しなでください。

(1) 推薦者氏名

会員番号

連絡先住所

電話番号

メールアドレス

(2) 候補者・団体名 (ふりがな)

候補者が団体の場合の代表者氏名

連絡先住所

電話番号

代表者メールアドレス

(2) 社会実践の概要と根拠となった学術内容

(A4で3枚以内:必要に応じて写真・図面などの添付可)

(4) (3) の成果を示す客観的証拠

(新聞、感謝状など、自由記載)

(5) 応用生態工学における今後の学術活動や社会実践についての抱負

10.5 ポイント以上のフォントで、6 ページ以内

提出先 応用生態工学会事務局

5-2 応用生態工学会 廣瀬ワークショップ助成募集について

応用生態工学会

会長 占部 城太郎

応用生態工学会の活動に対して日頃よりご協力ご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。このたび、応用生態工学会におきましては、応用生態工学の発展を実現するため、廣瀬利雄元会長からのご遺贈金を財源とした応用生態工学会 廣瀬ワークショップ助成制度を設けました。

廣瀬ワークショップ助成の対象は、「応用生態工学会正会員及び賛助会員が、応用生態工学の課題探求、学術的発展、それら成果の敷衍を目的として行うワークショップ、シンポジウム、講演会、出版等」です。集会の場合、その規模は問いません。

応募に際しては、別添の「**応用生態工学会 廣瀬ワークショップ助成に関する細則**」を確認の上、以下の要領でお申し込みください。

応募要領

1. 募集期間

令和 6 年 3 月 1 日から 4 月 30 日（必着）

2. 応募方法

別添の応募申請書（書式 4）に、必要事項を記入の上、PDF 化した電子ファイルを、電子メールに添付の上、「ecses-manager@ecsesj.com」まで募集期間内に提出してください。提出にあたっては、メール表題に「廣瀬ワークショップ助成応募書類」と明記してください。

3. 問い合わせ

電話による問い合わせはご遠慮ください。ご質問等がある場合は、電子メールでお願いします（ecses-manager@ecsesj.com）。

応用生態工学会 廣瀬ワークショップ助成に関する細則

第 1 条 目的

廣瀬利雄氏の遺志である応用生態工学の発展を実現するため、氏の遺贈金を財源とした廣瀬ワークショップ助成を設ける。

第 2 条 助成の対象

応用生態工学会正会員及び賛助会員が、応用生態工学の課題探求、学術的発展、それら成果の敷衍を目的として行うワークショップ、シンポジウム、講演会、出版等を対象とする。集会の規模は問わない。

第 3 条 助成の内容

助成総額は毎年 50 万円までとする。ただし、理事会の承認があった場合には、この限りではない。

第 4 条 応募方法

助成を希望する正会員もしくは賛助会員の代表者は、応募申請書（書式 4）に必要事項を記入し、別途定め

る期日までに学会事務局に提出する。

第 5 条 選考委員会

1. 助成の審議・選考は幹事会の下で組織する選考委員会（以下委員会）で行う。
2. 審査に当たっては必要に応じて外部識者の意見を受けることができる。

第 6 条 選考方法

1. 委員会は応募申請書をもとに審査を行う。
2. 委員会の委員が関係する助成対象が選考の最終段階に候補として残った場合には、その委員は最終段階での審議・選考からはずれるものとする。
3. 委員会は、助成対象を選考すると共に、助成金額を査定する。
4. 選考された助成対象は、選考理由を付けて会長に報告する。査定した助成金額の合計が助成総額に満たない場合もしくは選考された助成対象が無い場合も、その旨を会長に報告する。

第 7 条 助成対象及び助成金額の決定

会長は委員会が選定した助成対象及び助成金額について、その賛否を理事会に諮り、有効投票のうち 3 分の 2 以上の賛成がある場合、これを助成対象として決定すると共に、助成金額を決定した上で、直ちに応募者に通知をする。また、助成対象が無い場合には、理事会の承認を受けて、助成対象が無かったことを会員に公表する。

第 8 条 助成金の執行

助成対象者は、通知を受けてから 1 か月以内に予算執行計画を企画運営委員会に提出し、原則として当該年度内に助成金額の範囲内で助成金を執行することとする。正当な理由なく年度内の執行ができない場合は助成を取り消すことがある。

第 9 条 成果の公表

1. 助成を受けて行われたワークショップ、シンポジウム、講演会、出版等を行う際は、それらが廣瀬ワークショップ助成で行われた旨を周知・明記する。
2. それら成果は、応用生態工学会誌等で報告する。報告の様式は問わない。

第 10 条 特別会の開催

1. 前条までの規定に関わらず、幹事会は助成の周知又は研究成果の公表等を目的として、公開で行う廣瀬シンポジウム特別会の開催を提案することができる。
2. 第 1 項により、幹事会から提案があった場合には、会長は当該提案について、その賛否を理事会に諮り、有効投票のうち 3 分の 2 以上の賛成がある場合、実施することができる。

書式 4 応用生態工学会 廣瀬ワークショップ助成 応募申請書

年 月 日

(1) 応募者氏名 (ふりがな)

会員番号

所属・職名

連絡先住所

電話番号

メールアドレス

(2) 助成対象名 (集会や出版名など)

(3) 集会の内容

ワークショップ・シンポジウム・研究会・出版・その他

(4) 助成の概要 (3行以内)

(5) 実施日

(6) 参加者 会員 _____ 名、 非会員 _____ 名

(7) 助成希望金額

(8) 予算の内訳 (予算全体の中での本助成の用途とその内訳を明記すること)

(9) 研究についての説明 (A4で1枚以上、書式自由)

(10) 助成により得られる成果など (自由記載)

(11) 応用生態工学会誌でのレポートもしくは抄録の予定時期

10.5 ポイント以上のフォントで、4 ページ以内

提出先 応用生態工学会事務局

6 応用生態工学会第 27 回埼玉大会の開催案内

第 27 回全国大会(埼玉大会 2024)が下記のように予定され、実行委員会により準備がすすめられている。今後適宜情報提供する予定である。

・【委員長】：埼玉大学理工学研究科(環境科学・社会基盤部門) 田中 規夫 教

(1) 開催時期：2024 年 9 月 18 日(水)～21 日(土)

(2) 開催場所：埼玉会館(エクスクーション対象地は県内などで今後検討)

(3) 形 式：基本対面形式で実施(口頭発表、自由集会、ポスター発表)

公開シンポジウムのみオンライン(ハイブリッド)で配信

7 行事開催報告

7-1 応用生態工学会仙台 フィールド調査 R 5 報告

『仙台湾南部海岸環境追跡プロジェクト ～東日本大震災後の海岸堤防について～』

令和 5 年(2023 年)8 月 22、25、26 日

応用生態工学会仙台 普及・連携委員 佐藤高広

応用生態工学会仙台では、令和元年度より継続して仙台湾南部海岸の海岸堤防に着目したフィールド調査を実施しております。これまでの経験を踏まえ、海岸堤防周辺の環境調査を実施し、海岸堤防設置に関する環境保全に係る知見の収集に努めるものであります。なお、本取り組みは今回の調査だけで終了ではなく、今後も継続していく計画であります。

1. 開催趣旨

仙台湾南部海岸では、平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災の津波災害後の海岸堤防の復旧・復興において自然環境への配慮の観点から様々な影響緩和を行うとともに、『緑の防潮堤』等のより前向きな事業も進めてきました。海岸堤防の復旧・復興に関する影響緩和効果については、施工後数年の事業者によるモニタリング調査においてその効果が確認されていたが、復旧・復興事業が完了したことによりモニタリングも修了し、その後の経過が分からなくなりつつあります。応用生態工学会仙台では、海岸堤防の復旧・復興後の環境変化に関して応用生態工学的な側面から長期的にモニタリングを実施し、今後の海岸堤防等の計画・設計の在り方、海岸堤防設置時の環境保全の具体的方法等についての知見を収集し、幅広く発信することを企画しています。また、わが国には、河川・海岸地域における災害復興や国土強靱化における生態系機能の活用事例が少ない中で、仙台湾南部海岸の防潮堤と生態系回復状況の事実を周知させることは、被災地域で取り組んでいる者の責務であると考えます。

以上を踏まえて令和元年 8 月 31 日に 1 回目のフィールド調査を実施しました。その結果は、応用生態工学会誌(2022 年 25 巻 2 号の特集)へ投稿しました。それ以降、毎年の恒例行事として 8 月下旬頃にコロナ禍でありましたが、最小限の参加人数で、対策を行いながらフィールド調査を実施しました。

今年度は、令和元年以来のコロナの影響がない中、学生さんを含む総勢 30 名ほどで 5 回目のフィールド調査を実施しました。

2. 実施体制・参加者内訳等

主催：応用生態工学会 実施主体：応用生態工学会仙台

【R5 調査にご参加頂いた学識者の先生】

- ・ 占部城太郎先生(学会長、東北大学大学院生命科学研究科・教授)
- ・ 萱場祐一先生(名古屋工業大学大学院工学研究科社会工学専攻社会工学科・教授)
- ・ 黒沢高秀先生(福島大学共生システム理工学類・教授)
- ・ 平吹喜彦先生(東北学院大学教養学部・教授)

3. フィールド調査の実施状況

【R5 フィールド調査の実施状況】

- ・ 令和 5 年 8 月 22 日：ドローン測量
- ・ 令和 5 年 8 月 25 日：昆虫類コドラート設置
- ・ 令和 5 年 8 月 26 日：植物注目種調査、昆虫類調査および物理環境調査の実施
- ・ 令和 5 年 12 月 13 日：データ検討会（東北大学にて）





昆虫類調査の実施状況



採集された昆虫類

4. おわりに

東日本大震災から 10 年以上経過し、復興事業がほぼ終焉する中で、海岸堤防の在り方について生態系及び海岸管理上の現状と課題等について知見を集積することは、震災後における海岸生態系の回復の理解につながるものと考えます。本調査は、今後の適正な海岸堤防の管理の実現に大きく寄与しており、有意義なデータが取得できました。さらに、今年度は調査終了後も調査メンバーが集まってデータ検討会を実施し、令和元年以降のデータを取りまとめて、新たな知見を展開できないかを検討しており、今後も継続した取り組みを進めていく所存でございます。

最後に、本フィールド調査の運営においては、大学関係者、多くのコンサル会員の協力により実行することができました。特に、運営にご尽力いただいた各班の班長の皆様に心より感謝申し上げます。

7-2 河川再生に関する国際シンポジウム 開催報告

International Symposium on River Restoration in Switzerland and Japan: Cutting-edge Research, Practices, and Challenges

報告者：応用生態工学会普及連携委員東京
熊澤一正（応用地質株式会社）

開催報告

河川再生は自然のプロセスと生物多様性を回復させるために河川を管理するプロセスであり、人と野生生物の双方に利益をもたらします。このような河川再生に関して、スイスと日本は 30 年以上の豊富な交流実績があります。こうした背景を踏まえ、本シンポジウムでは、河川管理分野の専門家、実務家、政策立案者、学生にとって、河川再生の実践や更なる研究を推進するために最新の知見や技術を共有し、社会実装に向けた実質的な連携に関する議論を行いました。

日 時：令和 5 年 10 月 10 日（火） 13:00～17:00

場 所：東京工業大学 大岡山キャンパス デジタル多目的ホール

参加者：計 59 名（東京工業大学大学院博士課程学生を含む）

後 援：リバーフロント研究所

概要

河川工学、河川生態学、環境工学を専門とする 6 名の講演者 (Michael DÖRING (チューリッヒ応用科学大学)、Manuel ANTONETTI (チューリッヒ応用科学大学、WEB 参加)、中村 圭吾 (リバーフロント研究所)、大槻 順朗 (山梨大学)、巖島 怜 (東京工業大学)、吉村 千洋 (東京工業大学)) から、日本とスイスの河川再生に関する話題提供として、河川源流域の河床形態、日本の河川再生の概要、スイスの河川再生の概要、関東地方の主要河川の生態系サービス、日本における 3 次元を用いた河川設計と管理、スイス・サリーヌ氾濫原におけるリモートセンシング・水理モデル・3 次元可視化等の興味深いご講演を頂き、会場では大学院生を含む多くの参加者から活発な議論が行われました。



7-3 応用生態工学会金沢 第21回北信越現地ワークショップin石川

ー流域治水と連携 今後の豪雨に備え流域治水対策をどう考えていくかー

報告者：応用生態工学会金沢 普及・連携委員

平野 博範 (株)国土開発センター

1. はじめに

第 21 回北信越現地ワークショップ in 石川を令和 5 年 10 月 20 日 (金)と 10 月 21 日(土)で開催しました。10 月 20 日のワークショップは対面と Zoom による WEB のハイブリッド方式により石川県勤労者福祉文化会館で開催しました。テーマは「流域治水と連携～今後の豪雨に備え流域治水対策をどう考えていくか～」とし、昨年度の被災経験を踏まえ、様々な立場から流域治水に関する各種の対策と住民との合意形成について 6 人の方に講演していただきました。



応用生態工学会金沢柳井会長の挨拶

10 月 21 日の現地見学会は、田んぼダムの試験地、宮竹用水、ロードパークなかうみの里、綿ヶ滝などを見学しました。

2 日間の参加者は、ワークショップが会場と WEB で約 140 名、現地見学会が 33 名、ポスターセッション

ョンが 15 枚でした。

また、国土交通省北陸地方整備局、石川県、金沢市、小松市、石川県立大学、北國新聞社のご後援をいただいたほか、石川県治水協会、(一社)北陸地域づくり協会、北陸技術士懇談会から協賛金をいただきました。ご支援をいただいた諸団体に厚くお礼申し上げます。

ワークショップ、現地見学会ともに盛会裡に終えることができたのも、講師の皆様はじめ参加者の皆様、スタッフ及び関係者の皆様のお陰であり、心よりお礼を申し上げます。

以下、報告します。

2. 講演

1) 基調講演1 「流域治水と河川・氾濫原環境の保全」：

北海道大学 農学研究院 基盤研究部門 森林科学分野 教授 中村太士 氏

氾濫原環境の保全について、全国の取り組み事例を交えながら講演をいただきました。これまで、治水と環境の両立を図るための一方策として、全国の河川において、平水位相当で高水敷を掘削する取り組みが進められていますが、ネイチャーボジティブに寄与するには、平水位で画一的に掘削するのではなく、目的に応じた掘削高を検討することの重要性、さらに、高水敷掘削時には陸域環境だけでなく、アユ産卵床への影響等の水域環境にも目を向けることの重要性を学びました。今後の氾濫原環境の保全を考える上でとても参考になりました。



また、今後の流域治水の取り組みにおいて、流域治水関連法にも示された重要なキーワード「気候変動対策」、「グリーンインフラの考え方の普及」、「生態系ネットワークの形成」について、十勝川流域や石狩川流域の事例研究を交えながら分かりやすく解説頂きました。将来予想される豪雨・洪水の頻発化・激甚化を考慮した治水計画の見直しが進められる中で、災害リスクの低減に寄与するグリーンインフラを使った生態系ネットワーク形成の考え方について理解が深まりました。

2) 基調講演2 「流域治水における市民連携」：

国立研究開発法人 国立環境研究所 気候変動適応センター 副センター長 西廣 淳 氏

流域治水に関する3つのキーワードについて説明する。1つ目は「水をゆっくり流す」である。近代的な排水は水をすばやく流すように変化しており、これにより河川の上流では水害リスクが低くなったものの、下流では水害リスクが上昇している。整備されていない谷津は水の流出を遅れさせる機能があり、この機能を活用することで、水をゆっくり流すことが可能となる。



2つ目は「コベネフィットを重視する」である。谷津には水の流出を遅れさせる機能の他に水質浄化機能も有しており、また生物多様性も高い環境である。このため、谷津を活用することで水害リスクの低下だけでなく様々な効果を期待できる。

3つ目は「連携を広げる」である。全国各地で市民や企業によりグリーンインフラが活用されている。

治水を主目的とせずとも平常時の生態系サービスを楽しむことを目的とした活動も、結果的には治水に繋がることもある。流域治水を行政まかせにせず、市民や企業と連携することが重要である。

3) 講演1 「流域治水を推進する梯川における今年の豪雨を踏まえた今後の対応について」:

国土交通省 金沢河川国道事務所 流域治水課 課長 北村秀之 氏

国土交通省では、これまでに総合治水対策として河川対策、下水道対策、雨水貯留浸透施設の整備等が行われており、静岡県の大井川における令和5年の七夕豪雨では浸水家屋の減少に寄与していた。

しかし、近年は気候変動により水害が激甚化・頻発化しており、令和2年までの10年間で水害または土砂災害が発生しなかった市町村は、全国でわずか41であった。このような中、気候変動の影響を踏まえた「流域治水」が推進され、治水計画の見直しが行われている。また、民間企業でも浸水対策や雨水貯留浸透施設の整備が行われている。

梯川では「梯川水系流域治水プロジェクト」が推進されている中で、令和4年8月に水害が発生した。このため、「氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策」、「被害対象を減少させるための対策」、「被害の軽減、早期復旧・復興のための対策」を三本の柱とした「梯川水系緊急治水対策プロジェクト」がとりまとめられ、現在、集中的に再度災害防止対策を実施している。



4) 講演2 「令和4年8月大雨を踏まえた小松市の取り組みについて」:

小松市 技監 浮田博文 氏

小松市は、北陸新幹線の石川県内全線開通を100年に1度の好機ととらえ、市の魅力をPRを行っており、観光客や移住者等の人流の増加が見込まれ、災害に強いまちづくりを進めることが重要である。

令和4年度8月4日の大雨では、幸いにも生命に関わる人的被害はなかったが、市全域において浸水被害が発生した。

国管理区間は国土強靱化5か年加速化対策により堤防は決壊しなかったものの、支川で堤防決壊など氾濫が発生しており、今後の治水対策の課題となっている。

今回の大雨を踏まえ、小松市の緊急対策としては、主に内水対策になるが、ポンプ場増強等のハード対策や土地改良区とで治水協定を締結し、大雨が見込まれる際には用水を停止し、内水被害軽減を図るなど既存施設を活用した取組を行っている。

また、市全体の雨水排水計画の検討や災害に強いまちづくりを進めるため立地適正化計画に防災指針を加味した改訂を行う検討を行っている。

8月大雨の際の住民避難についての課題を解決するため国土交通省と連携して作成した「流域タイムライン」に基づき、早期避難が行われるよう市の地域防災計画の改訂し、現在は地区毎の防災計画(タイムライン)の作成を町内会に促している。



5) 講演3 「石川県の田んぼダムの取組について」:

石川県 農林水産部 農業基盤課 課長補佐 瀬川 学 氏

石川県では、農地・農業水利施設を活用した流域治水対策として、ため池などのハード対策に加え 3 つのソフト対策を試行している。3 つのソフト対策とは、①田んぼダム、②木場潟の事前排水、③ため池の事前放流である。

田んぼダムの特徴は、大規模な施設を新たに造る必要がないため、安価ですぐに効果の発揮が期待できることである。

また、課題としては、大きな効果を発揮するためには、広い範囲で継続的に取り組む必要があるため、農業者、地域住民、農業関係機関、行政機関等地域全体の取り組み体制を整える必要があることである。現在、県では試験田(3箇所)において、調整板の効果検証を実施している。あわせて、モデル流域(2箇所)において、シミュレーションによる田んぼダムの流出抑制効果の検証を進めている。



6) 講演4 「市民参加の流域治水に向けた合意形成」:

金沢大学 人間社会学域 地域創造学類 講師 坂本貴啓 氏

流域治水の合意形成の一取り組みとして、手取川流域で実施した「白山手取川ジオパーク水リレー」の話がありました。水リレーは手取川の源流、白山の雪解け水を上流から河口の日本海までリレーしながら運ぶ、市民参加型のユニークな活動です。

流域各所からランナーが集まり、協働作業で水を運ぶことで、手取川の恩恵だけでなく、治水・環境の理解が深まり、流域治水の合意形成の素地となったことがわかりました。

流域治水は、流域にすむみんなが総動員で助け合い支え合うための仕組みであり、このような市民参加型の取り組みはとても大事であると感じました。



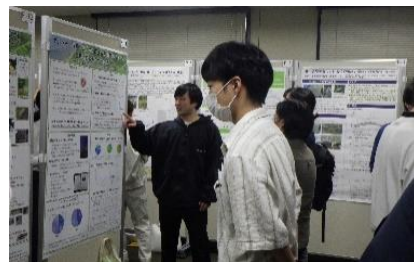
3. 総合討論

石川県立大学の上野裕介准教授をコーディネーターとし、コメンテーターに柳井氏、パネラーには講演をいただいた中村氏、西廣氏、北村氏、浮田氏、瀬川氏、坂本氏のメンバーで、本ワークショップのタイトルでもある「流域治水と地域連携」をテーマに討論が行われました。総合討論では、参加者に事前に配布した質問用紙をもとに話題が展開され、パネリストの他、会場からも多くの質問や意見が出され、活発な議論が展開されました。今回の議論で、参加者の「流域治水と地域連携の意義や大事さ」の認識が高まり、大変有意義な総合討論になったと感じました。



4. ポスターセッション

ポスターセッションは、昼休み時間を含めた 11:35~13:00 で開催しました。北陸地方を中心とした研究報告および事例報告のポスター15 枚が展示され、どのポスターセッションも活発な意見交換が行われていました。



5. 閉会挨拶

西出副会長より、基調講演、各講演、ポスターセッションに対する総括、講師等の方々へのお礼を申し上げました。また、有意義な議論ができたことに対して参加者の皆様に感謝の言葉が述べられました。今後もこのようなワークショップ等を継続し、技術を研鑽していくことを話され閉会しました。



6. 交流会：10/20

交流会は、金沢駅近くの「せん」で開催しました。柳井会長の挨拶・乾杯で開始となり、お酒が入って県内・県外からの参加者の熱いトークが始まりました。また、来年の北信越現地ワークショップが開催される福井のスタッフの方から楽しく盛り上がるトークをいただきながら、たくさんの方々と交流を深めることができました。



7. 現地見学会：10/21

今回の現地見学会は、富陽小学校脇の田んぼダム試験地、宮竹用水、ロードパークなかうみの里、綿ヶ滝、七ヶ用水、川北町コミュニティー&スポーツ公園、手取公園美し河原園地の7箇所を見学しました。

富陽小学校脇の田んぼダム試験地では、株式会社佛田農産の方から田んぼダムの実証実験とその結果について説明がありました。

宮竹用水では、小松市の浮田技監より、手取川宮竹用水土地改良区の用水に関する治水協力協定について説明がありました。

ロードパークなかうみの里（梯川と滓上川の合流部）では、石川県土木部河川課の橋本参事より、令和4年8月豪雨による被災状況と梯川水系緊急治水対策プロジェクトについての説明がありました。

綿ヶ滝と七ヶ用水では、金沢大学の坂本講師より、綿ヶ滝のみどころや手取川白山ジオパークの景観について説明がありました。

川北町コミュニティー&スポーツ公園では、金沢大学の坂本講師と金沢河川国道事務所西出副所長から、霞堤について説明がありました。

最後に手取公園美し河原公園では、石川県立大学の一恩教授より、手取川河口域の自然環境について説明がありました。

今回は、前日のワークショップで講演された場所を実際に訪れ、講演者の方から直接具体的な説明を受けましたので、参加者の皆様はより理解を深めることができたのではないかと思います。



7-4 応用生態工学会新潟 勉強会 開催報告

越後平野における生態系ネットワークの形成に向けて 『ラムサール条約湿地 佐潟の生き立ちを学ぶ勉強会』

報告; 応用生態工学会 新潟

1. 開催趣旨

新潟市西区赤塚に位置する佐潟^{さかた}は、国際的に見て重要な湿地であると認知され、1996 年 3 月にラムサール条約湿地に登録されました。佐潟は、都市部近郊にありながら、豊かな自然環境を有し、水鳥をはじめとする多様な生物の生息場所となっています。また、佐潟は、豊かな自然環境を支えるためになくてはならない基盤であり、周辺は特徴的な地形環境を有しています。

本勉強会は、ラムサール条約湿地自治体に関する新潟市の取り組みのご紹介と、佐潟周辺の特徴的な地形環境を知り生き立ちを学ぶために、地理学をご専門とされる新潟国際情報大学の澤口晋一教授（新潟市里潟研究ネットワーク会議座長）のご案内で現地（フットパス）を歩き、今後の保全への意識を高めてもらうことを目的に開催しました。



写真-1 佐潟（上）と夕刻佐潟
に戻るハクチョウの群（下）

2. 開催概要

- (1) 日 時：2023 年 11 月 26 日（日）13：00 受付、13：15～16：30
- (2) 会 場：新潟県新潟市西区赤塚 5404-1 佐潟水鳥・湿地センター、佐潟周辺

(4) 参加人数:20 名 (講師 2 名、スタッフ 6 名含む)

(5) プログラム

・座学 13:15~14:00

① 新潟市のラムサール条約湿地自治体認証について

講師:新潟市環境政策課 主査 高橋 良 氏

② 佐潟周辺の地形について

講師:新潟国際情報大学 国際学部国際文化学科 教授 澤口 晋一 氏

・佐潟周辺の地形観察 14:00~16:30

解説:新潟国際情報大学 国際学部国際文化学科 教授 澤口 晋一 氏

3. 実施概要

(1) 座学

新潟市の高橋主査から新潟市のラムサール条約湿地自治体認証までの経緯、認証後の活動等についてご講演頂きました。概要は、次のとおりでした。

2022 年 6 月に新潟市は、鹿児島県出水市とともに我が国初の認証自治体として決定されました。認証されるためには、湿地の保全・再生、普及啓発、環境教育等の推進に関する全 12 項目の国際基準に該当する必要がある、有効期間は 6 年間で、更新していくものです。

海外の認証自治体が新潟市を訪問し交流が始まっていること、認証を活かし「田園型環境都市」の世界的なモデル都市としての新潟市の周知や、湿地のさらなる保全および賢明な利用の促進などを目指し、「認証記念シンポジウム」の開催などを行っています。



写真-2 高橋 良氏

次に、澤口先生から、現地観察の予備知識として新潟砂丘の成り立ち、佐潟の形成についてご講演頂きました。次のお話は興味深いものでした。

佐潟は、砂丘湖とされていますが、実はラグーン（潟湖）です。ラグーンは、バリアーの発達によって外海と隔てられてできた水域です。バリアーは「沿岸州」と訳され、波の作用によって形成される地形です。風に飛ばされた砂が堆積してできる砂丘とは全く異なるものです。



写真-3 澤口 晋一教授

(2) 現地観察

澤口先生は、「佐潟ガイドブック※」で砂丘を結ぶフットパスを紹介されています。フットパスとは、イギリスを発祥とし、地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くこと (Foot) ができる小径 (Path) のことです。今回のフットパスを図-1 に示します。距離は約 5.2 km、出発地点の佐潟水鳥・湿地センターの標高は 6m、フットパス上で最も高い標高は、清三郎山の 50m です。また、見晴らしの丘展望台の標高は 35m です。高低差のあるフットパスを①御手洗潟、②砂丘の崖地形、③オオエノキ、④清三郎山、⑤見晴らしの丘展望台、⑥パラボリック砂丘の順番で観察しながら、約 2 時間 30 分かけて歩きました。

それぞれのポイントで潟の成り立ち、砂丘地形、砂丘を構成する砂の性質等についてご説明頂きました。

①御手洗潟と佐潟に供給される水は地下水です。②砂丘の崖地形の観察では、写真-6 に示すとおり急な崖が形成されており、佐潟の西側の北岸湖岸線が佐潟側へ張り出していることから、澤口先生は地滑りによってこのような地形になったのではないかと考えられています。③オオエノキは、2019 年に新潟市の保存樹として登録されています。それまでは、不法投棄のごみの中にあり、ごみの処分と下草を刈り取って登録に至ったとのことでした。④清三郎山から⑤見晴らしの丘展望台まで歩いたところで休憩を取り、新潟砂丘産のシルクスイート、いもジェンヌ（紅はるか）の焼き芋を食べました。休憩後、⑥パラボリック砂丘を観察しました。パラボリック砂丘は、冬季の日本海からの季節風によって砂丘が削られ、放物線で凹状になった砂丘特有の地形です。

※) <https://www.niigata-satokata.com/wp-content/uploads/sakatabook.pdf>

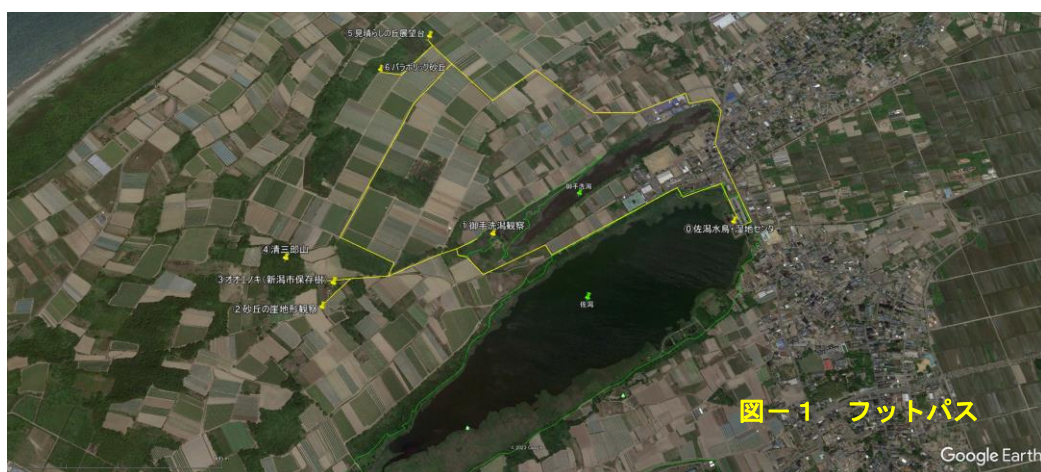


写真-4 澤口先生とフットパスを歩く



写真-5 オオエノキ



写真-6 砂丘の崖地形



写真-7 見晴らしの丘
展望台での休憩



4.あとかき

応用生態工学会新潟では、越後平野の生態系ネットワークをテーマに、2022 年 10 月に北信越現地ワークショップを開催しました。そこでフィールドワークを実施しましたが、大学の用務で参加されなかった澤口先生にお願いして、フィールドワークの続きとして本勉強会を開催しました。当日は、佐潟水鳥・湿地センターを訪れていた一般の方も飛び入り参加され、熱心に先生のお話を聞かれていました。

11 月下旬の新潟市は、秋から冬への季節の変わり目で天気の悪い日が多くなります。当日は雨も降らず、南寄りの微風で寒くもなく歩くにはちょうど良い日となり、無事に開催することができました。

お忙しいところ、日曜日に時間を割いて頂いた澤口先生、新潟市の高橋主査、そして参加頂いた皆様にお礼を申し上げます。

7-5 応用生態工学会福岡 2024 事例・研究発表会 開催報告

報告者：応用生態工学会福岡 齋藤剛(西日本技術開発(株))

1.開催趣旨

応用生態工学会福岡では、九州における応用生態工学の普及や産学官民の連携強化などを目的に、九州地区の事例・研究発表会を開催しています。

今回は、平成29年7月九州北部豪雨災害後の川づくりと環境変化を始め、応用生態工学の最新の知見について幅広い分野からの発表を行いました。



2.開催内容

【日 時】令和 6 年 1 月 31 日(水)9：30～17：00 (18：00 から懇親会)

【場 所】電気ビル共創館カンファレンス C (福岡市中央区渡辺通 2 丁目)

【後 援】国土交通省九州地方整備局、福岡県

【参加人数】会場 76 名+ZOOM 292 名 (懇親会 29 人)

【口頭発表タイトル・発表者】※敬称略

■平成29年7月九州北部豪雨を対象として構築した斜面崩壊予測モデルとその検証 浅田寛喜 (熊大院先科)

■平成29年九州北部豪雨後の魚類の回復状況と河川改修による影響を含めた要因分析 富重幹太((株)東京建設コンサルタント)

■筑後川水系における環境に配慮した河道掘削の検討 田中元 (筑後川河川事務所)

■彦山川上流部における災害復旧の事例について 吉武敬介 (遠賀川河川事務所)

■筑後川における環境DNA定量メタバーコーディングを用いた九州北部豪雨後の魚類群集の回復過程のモニタリング～2017年から2021年の変化～ 乾隆帝 (福工大社環)

■災害復旧工事後の桂川における魚類相および二枚貝類の生息状況 宇野潔 ((一財)九州環境管理協会)

■令和5年7月豪雨後の小石原川中流の魚類相-平成29年7月と今年の降水量、ダム運用等の比較を含めて 鬼倉徳雄 (九大院農)

- 巨瀬川流域の氾濫特性と氾濫流制御技術による流域治水の可能性 林博徳（九大院工）
- 遠賀川水系西川における河道整備について 今泉泰祐（福岡県直方県土整備事務所）
- 川内川上流部における3次元データを活用した多自然川づくりの取り組み 澤海人（いであ(株)）
- 掘削土砂を用いた球磨川河口域におけるヨシ原等の環境創出について 岸良武志（八代河川国道事務所）
- 福岡県の塩性湿地生態系の保全に関する研究 小山彰彦（九大院農）
- 球磨川上流部における河道形状とアユ生息場の評価 榎木彩香（熊大院先科）
- 耳川水系におけるアユの産卵環境改善について 井原高志（九大院農・西日本技術開発(株)）
- オングスジシマドジョウの潜在分布モデル構築-採捕データと環境DNAデータに基づくモデル比較 永江葉奈（九大院農）
- 土壌藻類を活用した環境にやさしい表面侵食防止技術（BSC工法） 井上太樹（日本工営(株)）

【ポスター発表者】※タイトル・敬称略

信澤輝（九大院農）、外西拓斗（九大院農）、Margarita Vanuni（九大院農）、Raisa Gautama（九大院工）、山崎庸平（九大院工）、徳永茉咲（九大院工）、松村一（九大院工）、塚田進之介（福工大社環）、山本一輝（福工大社環）、山田悠翔（福工大社環）、金子周平（福工大社環）、新垣俊介（熊大院先科）、野口公誠（熊大院先科）、吉崎雄宏（八千代エンジニアリング(株)）



島谷先生開会挨拶



口頭発表の様子



ポスター発表の様子

3.おわりに

前回(R2 年度)が WEB 開催であったため、今回は 5 年ぶりの対面開催となりました。コンサルタント、大学、国土交通省、福岡県から多くの発表があり、豪雨災害が頻発する九州の川づくりや新技術を活用した事例・研究等について深い議論が交されました。

最後に、ご発表いただいた皆さまを初め、関係者の皆さまには多大なご協力を賜りました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。



8. 理事会・幹事会報告

第 130 回理事会・第 103 回幹事会合同会議が本年 2 月 23 日に開催されました。同合同会議での主な審議は次の通りです。

1 定款(案)への意見募集結果と一部修正(案)について

定款案への意見募集の結果、意見の提出はなかった。ただし、いくつか修正をした方が良いと考えられる事項があるため審議を行い、以下について修正を行うことが承認された。

【新法人における最初の理事任期の調整】

現理事の任期について、現在の任意団体と新法人の通算で 2 年とする措置をとるために、設立時理事（現理事会構成員数名を予定）については、定款の附則に任期を 2025 年 9 月までと明記し、その他の理事については、設立時総会において、その任期を 2025 年 9 月までと決議し、議事録に残すこととした。

【地域研究会】

地域研究会設置についての条文を定款に追加することとした。

【基金条項の削除】

基金については将来の活用が想定されないことから不要と考えられるため、基金条項を削除することとした。※基金とは、法人事業のために資金を借り入れるものである。

【事務局職員について】

事務局に「職員を置く」とあり常駐と取られかねないという意見が前回理事会で出されたことから、「職員を置くことができる」と修正することとした。

2 法人化に向けた事項について

法人化に向けて、本年 6 月に任意団体の臨時総会（解散時総会）を開催するとともに、法人設立後の 7 月には新法人の設立時総会を開催して、以下の事項について決議することを予定している。これらに関して、承認された。

【新法人への会員の移動について】

以下の手順で、会員を新法人に移動してもらうことを予定する。

- ・新法人の設立時総会で、会員規程の制定を決議し、会員規程を施行する。
- ・新法人への参加を希望した会員全員（いわゆるオプトアウトで異議がなければそのまま新法人の方の会員になっていただく）に案内を発出する（電子メールによる周知）。

※会員規程については、任意団体の解散時総会で会員に対する事前案内を行うと共に、新法人の設立時総会で決議する。

※新法人の初年度の会費は従前の任意団体に納入した会費をもってこれを充当する。

【任意団体の解散について】

現在の学会規約には解散に関する取り決めがないが、任意団体の解散に備えて、規約を改正したうえで解散することが望ましい。このため、解散時総会において、学会規約について解散条項の追加（改訂）を決議したうえで、解散を決議する予定。

【寄付金取り扱い規程について】

寄付金取り扱い規程には、廣瀬元会長からの遺贈に関してもこの規程が適用されること、廣瀬賞等についての細則についても引き続き有効であることが記載される。新法人の設立時理事会で正式に決議する。

【その他事項】

次回の理事会において、無償譲渡契約、費用弁償規程、委員会規定出張旅費規程、委員会規程、地域研究会規定について審議予定。

3 2024 年度海外派遣募集について

2024 年度海外学会等への派遣者の募集要項について以下の変更が承認された。

- ・募集要項の英語版の提示
- ・助成額及び採択者数 年あたり助成の合計額を最大 40 万円とし、採択者を 1～2 名とする。

4 学会誌への投稿規程の改訂について

3 月の早い時期に学会ホームページで新しい規程を公開し、ニュースレター、メーリングリスト等で会員に周知する予定について承認された。

・規程の変更に応じた編集体制等（新規の規程項目への対応）の検討、実際の運用を踏まえた著者等からの問い合わせへの対応、ガイドライン（データペーパーガイドライン等）や QA の整備、必要に応じた継続的な規程の見直し等を行う。

5 廣瀬賞等の募集について

- ・2024 年度の募集要項について承認され、2 月末より応募・募集を開始することとした。

9. 2023 年度行事の経過と今後の予定

2023 年度行事の経過と今後の予定

4 月	2023 年度（令和 5 年度）開始 4/11 法人化等 WG 4/12-18 第 122 回理事会(メール会議) 4/13 第 14 期次期役員募集・推薦委員会(第 1 回)
5 月	5/9 企画運営委員会 5/17 法人化等 WG 5/26 第 98 回幹事会 5/26 ニュースレター101 号発行
6 月	6/1 法人化等 WG 6/21 第 123 回理事会
7 月	7/4 法人化等 WG 7/6 第 14 期次期役員募集・推薦委員会(第 2 回) 7/21 第 99 回幹事会 7/25 第 14 期次期役員募集・推薦委員会(第 3 回)
8 月	8/3 法人化等 WG 8/9 ニュースレター102 号発行 会誌「応用生態工学」Vol.26-1 発行 8/31 第 124 回理事会
9 月	9/20-23 応用生態工学会第 26 回大会（京都大会） (京都大学宇治キャンパス) 9/20-9/22 口頭発表、自由集会、ポスター発表、公開シンポジウム 9/22 総会、理事会・幹事会合同会議、各委員会を開催 9/23 エクスカーション
11 月	11/7 法人化等 WG 11/20 第 102 回幹事会
12 月	12/5 第 128 回理事会 一般社団法人定款(案)パブリックコメント実施 12/8 ニュースレター103 号発行
1~2 月	2/8 法人化等 WG 2/23 理事会・幹事会合同会議 2/23 特別公開シンポジウム(廣瀬シンポジウム)
3 月	3/1 2024 年度海外学会等への派遣員の募集 3/1 廣瀬賞等の募集 3/15 ニュースレター104 号発行 3/20 会誌「応用生態工学」Vol.26-2 発行 2023 年度（令和 5 年度）終了

2024 年度(令和 6 年度)行事の予定

4 月	2024 年度（令和 6 年度）開始
5 月	ニュースレター105 号発行 幹事会 理事会
6 月	臨時総会（任意団体解散時総会）
7 月	7/1(予定) 一般社団法人 応用生態工学会 設立 設立時総会 会誌「応用生態工学」Vol. 27-1 発行 ニュースレター106 号発行 理事会
8 月	理事会
9 月	応用生態工学会第 27 回大会（埼玉大会） 9 月 18 日（水）～20 日（金） 公開シンポジウム、口頭発表、自由集会、ポスター発表、 9 月 21 日（土） エクスカーション 大会期間中に臨時総会、理事会、各委員会を開催
11 月	理事会
12 月	ニュースレター107 号発行
3 月	ニュースレター108 号発行 3/1 2025 年度海外学会等への派遣員の募集 3/1 廣瀬賞等の募集
4 月	理事会
6 月	2024 年度（令和 6 年度）終了

10. 事務局より

10-1 住所等の連絡先変更は「会員登録情報変更フォーム」にてお願いします

1. 会員情報の変更登録は、学会ホームページトップ画面右上の「入退会・登録変更・購読」バナーから入り、「会員登録情報変更フォーム」に入力し送信してください。
2. 下記 URL で「会員登録情報変更フォーム」へ直接接続することもできます。
<https://www.ecesj.com/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=change>
3. 会員情報変更のご連絡は、学会事務局 eces-manager@ecesj.com にメールをいただくことでも可能です。

会誌(希望者のみ)のお届け、ニュースレター、その他の連絡では、かなりの「不達が発生」しています。

連絡先等の変更連絡をよろしくお願いいたします。

10-2 退会の申し出は「退会フォーム」にてお願いします

退会の申し出については、事務局の見落とし等をさけるため、①「学会ホームページ退会フォーム」または ②「事務局あてに退会の連絡メール」により連絡をお願いいたします。

10-3 会員数の比較

2024 年 3 月 7 日現在会員数

	会員数	対前年度比較
名誉会員	10 (10) 名	名
正 会 員	852 (877) 名	減 25 名
学生会員	105 (95) 名	増 10 名
合 計	957 (972) 名	減 15 名
賛助会員	47 (46) 法人	増 1 法人
	66 (65) 口	増 1 口

() は 2023 年 3 月 31 日の会員数